

(様式第 9)

福大病院 161号
平成23年10月5日

九州厚生局長 殿

学校法人 福岡大学
開設者名 理事長 鎌田 迪

福岡大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3の規定に基づき、平成22年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	87人
--------	-----

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法 → 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績 → 別紙参照(様式第13)

7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	367人	78人	445人	看護補助者	53人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	9人	3人	12人	理学療法士	16人	臨床検査技師	81人
薬剤師	47人	2人	49人	作業療法士	8人	衛生検査技師	0人
保健師	0人	0人	0人	視能訓練士	4人	その他	0人
助産師	40人	0人	40人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	813人	7人	820人	臨床工学技士	14人	医療社会事業従事者	2人
准看護師	0人	0人	0人	栄養士	4人	その他の技術員	21人
歯科衛生士	1人	0人	1人	歯科技工士	1人	事務職員	141人
管理栄養士	9人	0人	9人	診療放射線技師	43人	その他の職員	28人

- (注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	719.6人	63人	782.6人
1日当たり平均外来患者数	1,071人	49.7人	1,120.7人
1日当たり平均調剤数			1094 剤

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。



(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
・難治性眼疾患に対する羊膜移植術	15人
・先天性難聴の遺伝子診断	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾 患 名	取扱患者数	疾 患 名	取扱患者数
・ベーチェット病	45人	・膿疱性乾癬	15人
・多発性硬化症	44人	・広範脊柱管狭窄症	25人
・重症筋無力症	76人	・原発性胆汁性肝硬変	61人
・全身性エリテマトーデス	130人	・重症急性膵炎	5人
・スモン	1人	・特発性大腿骨頭壊死症	65人
・再生不良性貧血	19人	・混合性結合組織病	18人
・サルコイドーシス	38人	・原発性免疫不全症候群	1人
・筋萎縮性側索硬化症	19人	・特発性間質性肺炎	23人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	71人	・網膜色素変性症	23人
・特発性血小板減少性紫斑病	52人	・プリオン病	3人
・結節性動脈周囲炎	20人	・肺動脈性肺高血圧症	1人
・潰瘍性大腸炎	209人	・神経線維腫症	27人
・大動脈炎症候群	15人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	9人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	1人
・天疱瘡	9人	・慢性血栓性肺高血圧症	1人
・脊髄小脳変性症	65人	・ライソゾーム病	4人
・クローン病	122人	・副腎白質ジストロフィー	2人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	3人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	10人	・脊髄性筋萎縮症	1人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	283人	・球脊髄性筋萎縮症	0人
・アミロイドーシス	9人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	5人
・後縦靭帯骨化症	101人	・肥大型心筋症	0人
・ハンチントン病	1人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	47人	・ミトコンドリア病	1人
・ウェゲナー肉芽腫症	5人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	8人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	48人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	14人	・黄色靭帯骨化症	3人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	0人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	53人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・乳腺悪性腫瘍手術(乳がんセンチネルリンパ節加算及び乳がんセンチネルリンパ節加算2を算定する場合に限る)	・
・センチネルリンパ節生検	・
・胎児心エコー法	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	泌尿器、乳腺、外科病理、腎、皮膚、消化器、乳腺画像、脳外科、肺癌の各カンファレンス 計160回
部 検 の 状 況	部検症例数 30 例 / 部検率 11.70%

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
成人T細胞白血病リンパ腫に対するインターフェロン α とジドブジン併用療法の有用性の検証	田村 和夫	腫瘍・血液・感染症内科	150万円	補委	厚生労働省
ウイルスベクターを用いた腫瘍標的化抗体の作製と腫瘍治療法の開発	田中 俊裕	腫瘍・血液・感染症内科	80万円	補委	文部科学省
創薬の可能性:新規ペプチド型合成HDLの開発	朔 啓二郎	循環器内科	100万円	補委	独立行政法人 日本学術振興会
各種アンジオテンシンII 1型受容体ブロッカーの特性を生かした新たな創薬へ向けて	三浦 伸一郎	循環器内科	100万円	補委	独立行政法人 日本学術振興会
星状神経節アブレーションを用いた新しい心不全治療の試み	小川 正浩	循環器内科	110万円	補委	独立行政法人 日本学術振興会
合成HDLの多面的効果	木谷 嘉博	循環器内科	100万円	補委	独立行政法人 日本学術振興会
新規可溶性脂質輸送体を標的とした動脈硬化関連疾患の診断とその治療戦略	上原 吉就	循環器内科	140万円	補委	独立行政法人 日本学術振興会
ウイルス性肝炎における最新の治療法の標準化を目指す研究	向坂 彰太郎	消化器内科	250万円	補委	厚生労働省
難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究	向坂 彰太郎	消化器内科	40万円	補委	厚生労働省
糖尿病患者の早期貧血原因における低栄養とトランスサイレチン及びグレリンの関係	笹富 佳江	腎臓・膠原病内科	50万円	補委	(財)日本腎臓財団
ウイルス感染後の自然免疫と獲得免疫の総合作用によるIgA腎症の発症機序の解析	三宅 勝久	腎臓・膠原病内科	208万円	補委	日本学術振興会
IgG4関連腎疾患におけるT細胞の分化の解析	中島 衡	腎臓・膠原病内科	130万円	補委	日本学術振興会
リポ蛋白糸球体症の発症・進展に関するアポE異常とFc受容体異常との相互関係の解明	斉藤 喬雄	腎臓・膠原病内科	182万円	補委	日本学術振興会
進行性腎障害に関する調査研究	斉藤 喬雄	腎臓・膠原病内科	200万円	補委	厚生労働省
プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究	山田達夫(分担)	神経内科・健康管理科	150万円	補委	厚生労働省
身体活動の研究拠点形成	山田達夫(分担)	神経内科・健康管理科	100万円	補委	文部科学省
認知症の実態把握に向けた総合的研究	山田達夫(分担)	神経内科・健康管理科	1,000万円	補委	厚生労働省

パーキンソン病関連遺伝子DCTN1の機能解析	坪井義夫(代表)	神経内科・健康管理科	170万円	補委	文部科学省
パーキンソン病に対する視床下核刺激術:治療成績の向上と医療経済効果の検討	馬場康彦(代表)	神経内科・健康管理科	50万円	補委	文部科学省
性同一性障害に対するホルモン療法が心理・認知機能に及ぼす影響についての縦断的研究	永井 宏	精神神経科	40万円	補委	文部科学省
自殺企図の再発防止に対する複合的ケースマネジメントの効果:多施設共同による無作為化比較研究(ACTION-J)	衛藤 暢明	精神神経科	20万円	補委	厚生労働省
児童青年精神科領域における診断・治療の標準化に関する研究	西村 良二	精神神経科	70万円	補委	厚生労働省
多次元的研究手法による「チャンネル病」としてのてんかんの統合的分子病態研究	廣瀬 伸一	小児科・総合周産期母子医療センター	2,000万円	補委	文部科学省
ヒトてんかんの遺伝子改変モデル動物の作出と革新的治療の開発	廣瀬 伸一	小児科・総合周産期母子医療センター	550万円	補委	日本学術振興会
重症・難治性急性脳症の原因解明と診療確立に向けた研究班	廣瀬 伸一(分担)	小児科・総合周産期母子医療センター	100万円	補委	厚生労働省
脳形成異常の成立機序の解明と治療法確立のための融合的研究	廣瀬 伸一(分担)	小児科・総合周産期母子医療センター	200万円	補委	厚生労働省
乳幼児破局てんかんの実態と診療指針に関する研究	廣瀬 伸一(分担)	小児科・総合周産期母子医療センター	150万円	補委	厚生労働省
早期乳児てんかん性脳症の遺伝子解析	廣瀬 伸一(分担)	小児科・総合周産期母子医療センター	100万円	補委	公益信託九州大学医学部同窓会
てんかん患者におけるPCDH19遺伝子解析	日暮 憲道	小児科・総合周産期母子医療センター	160万円	補委	てんかん治療研究財団
本邦てんかん患者におけるPCDH19遺伝子異常と臨床的スペクトラムの解明	日暮 憲道	小児科・総合周産期母子医療センター	160万円	補委	文部科学省
体細胞核移植クローン技術を用いたヒトてんかん責任遺伝子改変モデルラットの作成	石井 敦士	小児科	70万円	補委	日本学術振興会
小児交互性片麻痺の責任遺伝子の探索と分子病態の解明	石井 敦士	小児科	200万円	補委	貝原守一医学振興財団
最先端胸部手術医療技術のアジアに向けた教育的配信と環境の構築	岩崎 昭憲	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	26万万円	補委	文部科学省
軟部肉腫細胞株の樹立とその分子基盤の解明—分子標的治療の開発に関する研究—	西尾 淳	整形外科	100万円	補委	整形災害外科学研究助成金財団研究助成金
非円形細胞肉腫の分子基盤の解明とその臨床応用に関する研究	西尾 淳	整形外科	30万円	補委	福岡県対がん協会がん研究助成金
肩関節腱板損傷に対する、種々関節鏡視下腱板修復術後の関節液流出率の測定	寺谷 威	整形外科	100万円	補委	公益信託九州大学医学部同窓会
神経皮膚症候群に関する調査研究	中山 樹一郎	皮膚科	110万円	補委	厚生労働省

食品を介したダイオキシン類等の人体への影響の把握とその治療法の開発等に関する研究	中山 樹一郎	皮膚科	110万円	補委	厚生労働省
肝炎・肝硬変に対する抗ウイルス剤以外の治療法に関する研究	今福 信一	皮膚科	50万円	補委	厚生労働省
悪性黒色腫に対する新しい診療体系の確立に関する研究	中山 樹一郎	皮膚科	15万円	補委	厚生労働省
卵巣癌を対象とした分子標的治療薬BK-UMの臨床開発	宮本 新吾	産婦人科	3,500万円	補委	文部科学省
高度癌治療プロセス構築チーム『高度先進医療を支援するハイパフォーマンスバイオマテリアルの創製とその医療用デバイスとしての応用』	江本 精	産婦人科	1,673万円	補委	文部科学省
超音波を併用した癌分子標的・血管新生阻害療法の臨床導入に向けての研究	江本 精	産婦人科	468万円	補委	文部科学省
ミューラー管がん幹細胞の同定とその性状分析を基礎とした治療法の開発	江本 精	産婦人科	50万円	補委	日本婦人科腫瘍学会公募研究助成
がん幹細胞研究チーム	江本 精	産婦人科	49万円	補委	福岡大学 領域別研究
ヒト胎児肺成熟促進のための創薬開発	吉里 俊幸	産婦人科・総合周産期母子医療センター	32.7万円	補委	福岡大学 平成22年度 領域別研究チーム
癌分子標的治療薬適応基準判定のための診断的ミニアレイの開発	辻岡 寛	産婦人科	130万円	補委	文部科学省
卵巣癌分子標的治療薬CRM197の臨床応用に向けた基礎的研究	辻岡 寛	産婦人科	100万円	補委	公益信託九州大学 医学部同窓会
アデノウイルス眼感染症の新しい薬物治療の開発と臨床応用に関する研究	内尾 英一	眼科	130万円	補委	文部科学省
ステロイド依存性漢音難聴の新しい診断法及び診断基準に対する検討	中川 尚志	耳鼻咽喉科	195万円	補委	厚生労働省
好酸球性中耳炎の病態解明による難聴性中耳炎に対する治療戦略	中川 尚志	耳鼻咽喉科	31万円	補委	文部科学省
MR計算画像T2*及びT2mapによる生体肝内鉄の非侵襲的評価とその臨床応用	吉満 研吾	放射線科	160万円	補委	文部科学省
MRIおよびCT画像による筋・肝脂肪量の評価の研究	吉満 研吾	放射線科	100万円	補委	私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
顎顔面手術の生体力学的評価	高橋 宏昌	歯科口腔外科	30万円(総額)	補委	福岡大学 領域別研究チーム
神経筋疾患患者の嚥下障害の進行と最大舌圧値の推移	梅本 丈二(代表)	歯科口腔外科	95万円(総額)	補委	日本歯科医学会 平成22年度 プロジェクト研究費
神経筋疾患患者の嚥下障害の進行と最大舌圧値の推移	喜久田 利弘(分担)	歯科口腔外科	95万円(総額)	補委	日本歯科医学会 平成22年度 プロジェクト研究費
摂食・嚥下機能低下がみられた脳血管疾患患者への介護予防のための前向き介入研究	喜久田 利弘(分担)	歯科口腔外科	10万円(分担)	補委	日本学術振興会 科学研究費 基盤研究(C)

摂食・嚥下機能低下がみられた脳血管疾患患者への介護予防のための前向き介入研究	梅本 丈二(分担)	歯科口腔外科	10万円(分担)	補委	日本学術振興会 科学研究費 基盤研究(C)
短腸症候群における腸管延長術ステップ法の有用性についての基礎的研究	増本 幸二	総合周産期母子医療センター	143万円	補委	日本学術振興会
癌浸潤促進因子EMMPRINの多機能性メカニズムの解析	鍋島 一樹	病理部	104万円	補委	文部科学省
MT1-MMPおよびMT1-MMPと相互作用する分子群によるがんの悪性形質獲得の分子機序の解明と臨床応用	鍋島 一樹	病理部	95万円	補委	東京大学医科学 研究所共同研究 拠点事業

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Cytopathology (21:103-110, 2010)	EMMPRIN (CD147) expression and differentiation of papillary thyroid carcinoma: implications for immunocytochemistry in FNA cytology.	荒武 八起	腫瘍・血液・感染症内科
Cancer Chemother Pharmacol (65:1203-1207, 2010)	Population pharmacokinetic study of a test dose oral busulfan in Japanese adult patients undergoing hematopoietic stem cell transplantation.	高松 泰	腫瘍・血液・感染症内科
Eur J Haematol (84:391-397, 2010)	THP-COP Regimen for the Treatment of Peripheral T-Cell Lymphoma and Adult T-cell Leukemia/Lymphoma: A Multicenter Phase II Study.	高松 泰	腫瘍・血液・感染症内科
Int J Hematol.(92:503-509, 2010)	A phase I study of bortezomib in combination with doxorubicin and intermediate-dose dexamethasone (iPAD therapy) for relapsed or refractory multiple myeloma.	高松 泰	腫瘍・血液・感染症内科
Breast Cancer (21:453-458, 2010)	Paclitaxel as a first-line chemotherapy for Japanese women with advanced or recurrent breast cancer: a multi-institutional practice-based study by the Kyushu Breast Cancer Study Group (KBC-SG).	田村 和夫	腫瘍・血液・感染症内科
Anti-Cancer drugs (21:453-458, 2010)	Oral combination chemotherapy with capecitabine and cyclophosphamide in patients with metastatic breast cancer: A phase II study.	高松 泰	腫瘍・血液・感染症内科
Leuk Lymphoma (51: 507-514, 2010)	Am80 inhibits stromal cell-derived factor-1-induced chemotaxis in T-cell acute lymphoblastic leukemia cells.	松本 太一	腫瘍・血液・感染症内科
Jpn J Clin Oncol (40:222-226, 2010)	Disturbance of the Growth Hormone-Insulin-like Growth Factor-1 Axis Associated with Poor Performance Status in Patients with Solid Tumors.	田村 和夫	腫瘍・血液・感染症内科
Jpn J Infect Dis (63:332-7, 2010)	Analysis of Candida glabrata strains with reduced sensitivity to micafungin in vitro isolated from a patient with persistent candidemia.	田中 俊裕	腫瘍・血液・感染症内科
Environ Health Perspect(18: 400-406, 2020)	Peroxisome Proliferator Activated Receptor-gamma Mediates Bisphenol A Inhibition of FSH-Stimulated IGF-1, Aromatase, and Estradiol in Human Granulosa Cells.	柳瀬 敏彦	内分泌・糖尿病内科
Endocrinology (151: 3307-3316, 2010)	Dihydrotestosterone suppresses foam cell formation and attenuates atherosclerosis development.	柳瀬 敏彦	内分泌・糖尿病内科
J Obstet Gynaecol Res (36: 448-453, 2010)	Granulosa cell tumor with activated mTOR-HIF-1alpha-VEGF pathway.	柳瀬 敏彦	内分泌・糖尿病内科
Reprod Biol Endocrinol(14: 8-61, 2010)	Homeobox A7 increases cell proliferation by up-regulation of epidermal growth factor expression in human granulosa cells.	柳瀬 敏彦	内分泌・糖尿病内科
Endocrine J(57: 981-9, 2010)	Serum gamma-glutamyltransferase, triglyceride and total cholesterol are possible prediabetic risk markers in young Japanese men.	明比 祐子	内分泌・糖尿病内科
Pharma Medica (29: 145-152, 2011)	レトロスペクティブ解析による糖尿病患者基礎統計データの有用性に関する検討	竹之下 博正	内分泌・糖尿病内科
Biochem Biophys Res Commun (405: 79-84, 2011)	Exendin-4, a glucagon-like peptide-1 receptor agonist, reduces intimal thickening after vascular injury.	野見山 崇	内分泌・糖尿病内科
Hypertens Res(33:149-154,2010)	Homocysteine-induced oxidative stress upregulates chymase in mouse mastocytoma cells.	藤見 幹太	循環器内科
Hypertens Res(33(2),105-106.2010)	Do angiotensin II type 1 receptor blockers have molecular effects?	三浦 伸一郎	循環器内科

整形外科と災害外科(59(3):549-555, 2010)	外反母趾を合併した外反偏平足の治療経験	蓑川 創	整形外科
整形外科と災害外科(59(3):704-707, 2010)	修復不能な広範囲腱板断裂に対して広背筋移行術を施行し長期経過した2症例	倉 明彦	整形外科
J Exp Clin Cancer Res.(24;29:153-162, 2010)	Establishment of a new human pleomorphic malignant fibrous histiocytoma cell line, FU-MFH-2: molecular cytogenetic characterization by multicolor fluorescence in situ hybridization and comparative genomic hybridization.	西尾 淳	整形外科
Spine(36(1):57-62, 2011)	Combined Measurement of Nerve Root Blood Flow and Electrophysiological Values.	高森 義博	整形外科
Current Orthopaedic Practice(22(1):52-58,2011)	Total hip arthroplasty using a short stem.	鎌田 聡	整形外科
Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc.(2011 Feb 25). [Epub ahead of print]	Evaluation of rotational instability in the anterior cruciate ligament deficient knee using triaxial accelerometer: a biomechanical model in porcine knees.	前山 彰	整形外科
日本美容外科学会会報(33(1):10-16,2011)	「金の糸」療法後の金属アレルギー症例	牧野 太郎	形成外科
Acta Neurochir(152:1673 - 1678, 2010.)	Clinicopathological characteristics in patients presenting with acute onset of symptoms caused by Rathke's cleft cysts.	小松 文成	脳神経外科
Neurologia medicochirurgica(50(11):972 - 976, 2010.)	Comparison of Clinical Outcomes of Intraventricular Hematoma Between Neuroendoscopic Removal and Extraventricular Drainage.	小松 文成	脳神経外科
J Atheroscler Thromb(17(4):342 - 349, 2010.)	Plasma Level of Platelet-derived Microparticles Is Associated with Coronary Heart Disease Risk Score in Healthy Men.	上羽 哲也	脳神経外科
Thromb Res.(125(6):e329 - 334.Epub 2010)	Correlation and association of plasma interleukin-6 and plasma platelet-derived microparticles, markers of activated platelets, in healthy individuals.	上羽 哲也	脳神経外科
Pathology-Research and Practice(206:391-396, 2010)	Histopathologic characteristics of a saccular aneurysm arising in the non-branch segment of the middle cerebral artery.	武村 有祐	脳神経外科
Acta Neurochirurgica suppl. (107: 51-56, 2010)	Surgical treatment of intracranial VA dissecting aneurysm.	竹本 光一郎	脳神経外科
Neurosurg Emerg(15(2):122 - 128, 2010)	破裂脳動脈瘤に伴う重症くも膜下出血に対する治療成績:コイル塞栓術の積極的導入および超急性期神経内視鏡的血腫除去術との複合治療の可能性について	岩朝 光利	脳神経外科
日本冠疾患学会雑誌(2010, 16(2):127-132)	腎不全透析例に対する冠動脈バイパス術の遠隔成績	桑原 豪	心臓血管外科
Heart Surg Forum(2010, 13(4):199-203)	Efficacy of propafenone hydrochloride in preventing postoperative atrial fibrillation after coronary artery bypass grafting.	伊藤 信久	心臓血管外科
J. Eur. Acad. Dermatol. Venereol.(24(9): 1114-1116, 2010)	Questionnaire-based survey of the treatment of patients with psoriasis and hepatitis C in Japan.	今福 信一	皮膚科
Skin Cancer(25(1):101-104, 2010)	3D-CTを併用したセンチネルリンパ節同定を行った外陰部Paget病の3例	中浦 淳	皮膚科
西日本皮膚科.(72(3): 235-239, 2010)	福岡大学病院における褥瘡患者の転帰と褥瘡の重症度の関係について	今福 信一	皮膚科

Biochem Biophys Res Commun(391(1):85-90,2010)	Molecular mechanisms of the antagonistic action between AT(1) and AT(2) receptors.	三浦 伸一郎	循環器内科
Circulation Journal(74(4):771-778,2010)	A Randomized Controlled Open Comparative Trial of Varenicline vs Nicotine Patch in Adult Smokers-Efficacy,Safety and Withdrawal Symptoms (The VN-SEESAW study)-.	塚原 ひとみ	循環器内科
The Japanese Peptide Society(281-284,2010)	Syntfesis of a Peptide Removing Cholesterol from Cell and Its Ability of HDL Formation in Blood Plasma.	鬼木 幸祐	循環器内科
Clinical and Experimental Hypertension(32:129-136,2010)	Clinical and Pharmacotherapeutic Relevance of the Double-Chain Domain of the Angiotensin II Type 1 Receptor Blocker Olmesartan.	木谷 義博	循環器内科
JOURNAL of CARDIOLOGY Review(55:(3)287-290,2010)	Effects of statin and lipoprotein metabolism in heart failure.	三浦 伸一郎	循環器内科
Circulation Journal(74(6):1096-1103,2010)	Long-Term Effects of Box Isolation on Sympathovagal Balance in Atrial Fibrillation.	山口 善央	循環器内科
Journal of Cardiology(56,166-175,2010)	Characteristics of the conduction of the left atrium in atrial fibrillation using non-contact mapping.	高嶋 英夫	循環器内科
Clin Exp Hypertens(32(3):202-208,2010)	Pharmacological intervention using reconstituted high-density lipoprotein changes in the lipid profile in spontaneously hypersensitive rats.	今泉 聡	循環器内科
Drug Metab Lett(4(3):139-48,2010)	L-4F differenrially alters plasma levels of oxidized fatty acids resulting in more anti-inflammatory HDL in mice.	今泉 聡	循環器内科
Mol Genet Metab(2010)	Mitogen-actived protein kinase phosphatase-1 deficiency decreases atherosclerosis in apolipoprotein E null mice by reducing monocyte chemoattractant protein-1 levels.	今泉 聡	循環器内科
Journal of Arrhythmia(26(3):176-180,2010)	Does Atrial-Pacing from Different Intra-Atrial Sites for Atrial Fibrillation Effect Pulmonary Venous Pressure?	光武 ちはる	循環器内科
Journal of Arrhythmia(26(4):259-266,2010)	Comparison of the Effects of Na ⁺ and K ⁺ Channel Blockers on the Electrophysiological Properties of the Pulmonary Veins in Patients with Atrial Fibrillation.	安田 智生	循環器内科
J Atheroscler Thromb.(17(8):870-878,2010)	Significance of serum high-Density lipoprotein cholesterol levels for diagnosis of coronary stenosis as determined by MDCT in patients with suspected coronary artery disease.	志賀 悠平	循環器内科
Hypertens Res(33:1044-1052,2010)	A small difference in the molecular structure of angiotensin II receptor blockers induces AT ₂ receptor-dependent and -independent beneficial effects.	藤野 正礼	循環器内科
J Arrhythmia(26:103-110,2010)	Efficacy of Additional Amiodarone Therapy in Patients with an Implantable Cardioverter-Defibrillator.	松本 直道	循環器内科
J Hypertens(28(8):1614-1616,2010)	Is a blood pressure rise the only deleterious off-target effect of cholesterol ester transfer protein inhibitors?	三浦 伸一郎	循環器内科
J Chin Clin Med(5(3):123-129,2010)	Antioxidative capacity of hydrochlorothiazide and atenolol in long-term hypertention therapy.	サンカー・デバラジャン	循環器内科
Hepatology Research (40(6),557-565,2010.6)	Peginterferon-alpha-2b plus ribavirin therapy in patients with chronic hepatitis C as assessed by a multi-institutional questionnaire in Japan.	向坂 彰太郎	消化器内科
Medical Molecular Morphology(43(3):134-138,2010.9)	Sustained upregulation of sodium taurocholate cotransporting polypeptide and bile salt export pump and downregulation of cholesterol 7 α -hydroxylase in the liver of patients with end-stage primary biliary cirrhosis.	竹山 康章	消化器内科

Hepatology Research (40(12):1204-1211, 2010.12)	Clinical features of Wilson disease : Analysis of 10 cases.	竹山 康章	消化器内科
アルコールと医学生物学 (30,120-123,2011)	非アルコール性脂肪性肝疾患(NAFLD)において γ -GTPは酸化ストレスマーカーになるのか？	入江 真	消化器内科
Clin Exp Nephrol (15;25-29,2011)	Aggravation of diabetic nephropathy in OLETF rats by complication of Thy-1.1 nephritis.	渡辺 真	腎臓・膠原病内科
Prostaglandins Other Lipid Mediat.(93:14-19.2010)	Improvement of dyslipidemia in OLETF rats by the prostaglandin I(2) analog beraprost sodium.	渡辺 真	腎臓・膠原病内科
Ren Fail. (32(7):849-854, 2010)	The proportion and metabolic effects of adiponectin multimeric isoforms in patients with chronic kidney disease on maintenance hemodialysis.	安部 泰弘	腎臓・膠原病内科
Clin Nephrol.(73(5):385-391,2010)	An amplification of IL-10 and TGF-beta in patients with IgG4-related tubulointerstitial nephritis.	中島 衡	腎臓・膠原病内科
Therapeutic Research (31(9): 1244-1246, 2010)	脂質異常症を合併したIgA腎症患者におけるHMG-CoA還元酵素阻害薬とロサルタンとの併用における腎保護効果を検討する多施設共同研究 LIPS研究(Losartan IgA nephropathy Protection with Statin Study).	斉藤 喬雄	腎臓・膠原病内科
Clin Exp Immunol,(160,457-460,2010)	Impaired host defense against Mycobacterium avium in mice with chronic granulomatous disease.	藤田 昌樹	呼吸器内科
J Infect Chemother.(2010, 16:113-7)	Clinical efficacy and safety of cefepime in febrile neutropenic patients with lung cancer.	藤田 昌樹	呼吸器内科
INTERNAL MEDICINE (49:1427-1431 2010 July)	A Young Woman with Interstitial Pneumonia and Coexisting Deposition of Surfactant Proteins.	原田 泰志	呼吸器内科
J Neurol Sci.(293:82-86, 2010)	Case-control study of risk of Parkinson's disease in relation to hypertension, hypercholesterolemia, and diabetes in Japan.	山田 達夫	神経内科・健康管理科
Br J Nutr.(26:1-8, 2010)	Dietary intake of folate, vitamin B6,vitamin B12 and riboflavin and risk of Parkinson's disease: a case-control study in Japan.	山田 達夫	神経内科・健康管理科
J Neurol Sci.(288:117-122, 2010)	Dietary fat intake and risk of Parkinson's disease: a case-control study in Japan.	山田 達夫	神経内科・健康管理科
Nutrition.(26:515-521, 2010)	Dietary glycemic index is inversely associated with the risk of Parkinson's disease: a case-control study in Japan.	山田 達夫	神経内科・健康管理科
Acta Neurol Scand.(121: 127-130, 2010)	Less protease-resistant PrP in a patient with sporadic CJD treated with intraventricular pentosan polysulphate.	山田 達夫	神経内科・健康管理科
地域保健.(10(6):74-81,2010)	認知症予防のための安心院プロジェクト 9年間の歩み.	山田 達夫	神経内科・健康管理科
Brain Reserch. (1353 125-132,2010)	Telmisartan, a partial agonist of peroxisome proliferator-activated receptor gamma, improves impairment of spatial memory and hippocampal apoptosis in rats treated with repeated cerebral ischemia.	西村 良二	精神神経科
Kyushu Neuropsychiatry. (55: 156-161,2009)	Trends in the Usage of Day Care by Day-care Users before and after the Implementation of These Services and Support Programs for Persons with Disabilities Act: A joint multicenter study.	平川 清人	精神神経科
Psychiatry and clinical Neuroscience. (2010Apr;64(2):157-61. Epub 2010 Feb 1.)	Regional cerebral blood flow changes in female to male gender identity disorder.	縄田 秀幸	精神神経科

Brain Dev (vol.32(7);538-543,2010)	Positive association between benign familial infantile convulsions and LGI4.	石井 敦士	小児科・総合周産期 母子医療センター
Pediatr Neurol (vol.43;131-134,2010)	Non-thalamic generalization of ictal spikes in atypical absence seizures.	日暮 憲道	小児科・総合周産期 母子医療センター
J Hum Genet (vol.55;375-378,2010)	Mutational analysis of GABRG2 in a Japanese cohort with childhood epilepsies.	石井 敦士	小児科・総合周産期 母子医療センター
Journal of Child Neurology (vol.25(12);1521-1524,2010)	Benign convulsions with mild gastroenteritis: Is it associated with sodium channel gene SCN1A mutation?	廣瀬 伸一	小児科・総合周産期 母子医療センター
Brain Dev (vol.32;454-462,2010)	Clinical study of childhood acute disseminated encephalomyelitis, multiple sclerosis, and acute transverse myelitis in Fukuoka Prefecture, Japan.	鳥巢 弘道	小児科
Asian Journal of Surgery (33(1):8-13, 2010)	Impact of short hepatic vein reconstruction in living donor adult liver transplantation using a left liver caudate lobe graft.	山内 靖	消化器外科
医療事故・紛争対応研究会誌(4): 30-33, 2010)	薬剤関連事故に関する判例紹介	中村 伸理子	消化器外科
Hepato-gastroenterology 57 (101): 716-719, 2010)	Long-term outcome of laparoscopic surgery for T1 cancer patients of the colorectum.	星野 誠一郎	消化器外科
福岡歯科大学学会雑誌 (36(3):111-117,2010)	腹部手術における術後創管理の工夫	篠原 徹雄	消化器外科
Hepato-gastroenterology (57:1119-1122,2010)	Prospective randomized trial of a closed-suction drain versus a Penrose drain after a colectomy.	篠原 徹雄	消化器外科
International surgery (95(1): 49-53,2010)	Limy bile syndrome complicated by obstructive jaundice.	佐々木 隆光	消化器外科
Hepato-Gastroenterology (58(105): 257-262, 2011)	Clinical outcomes of Roux-en-Y and Billroth I reconstruction after a distal gastrectomy for gastrin cancer : What is the optimal reconstructive procedure ?	田中 伸之介	消化器外科
Hepato-Gastroenterology (57(97): 3-7, 2010)	Clinical Advantages of Combined Seton Placement and Infliximab Maintenance Therapy for Perianal Fistulizing Crohn's Disease: When and How were the seton drains removed?	田中 伸之介	消化器外科
日本大腸肛門病学会誌 (63:396-398)	私の診療と工夫 ストーマ脱出に対しDelorme手術を応用した治療経験	堺 浩太郎	消化器外科
Hepato-Gastroenterology. (57:813-818,2010)	Single Orifice Vein Reconstruction in Left Liver Plus Caudate Lobe Graft.	山内 靖	消化器外科
癌と化学療法 (37:83-88 2010)	当科における切除不能進行大腸癌および再発大腸癌に対するBevacizumabの使用経験.	内藤 雅康	消化器外科
胃と腸 (45(9): 1439-1450,2010)	【食道表在癌の深達度診断】 肉眼病理の立場から	槇 研二	消化器外科
Endoscopy (42:E326-E327, 2010)	Use of endocytoscopy in the diagnosis of rare, depressed-type ileal adenoma.	塩飽 洋生	消化器外科
日本大腸肛門病学会誌 (63(1):21-26, 2010)	長期経過観察を行ったクローン病73症例における腸管外合併症(皮膚,関節病変は除く)の検討	谷村 修	消化器外科

Epilepsia (vol.51(4);655-670,2010)	Genetic testing in the epilepsies -Report of the ILAE Genetics Commission.	廣瀬 伸一	小児科・総合周産期 母子医療センター
Asian J Endosc Surg(3:185-188 /2010)	Teleconferences on thoracoscopic surgery using an academic network between Asian institutions.	大淵 俊朗	呼吸器・乳腺内分 泌・小児外科
Asian J Endosc Surg (3:162-168 /2010)	Long-term patient outcome 10years after video-assisted thoracoscopic surgery lobectomy for non-small cell lung cancer.	今給黎 尚幸	呼吸器・乳腺内分 泌・小児外科
日本胸部臨床(69:89- 92,2010)	肺癌に対する胸腔鏡下肺切除術	岩崎 昭憲	呼吸器・乳腺内分 泌・小児外科
日本関節鏡・膝・(35(2): 443-447, 2010)スポーツ整 形外科学会雑誌	変形性足関節症に対する鏡視下デブリードマンの 術後成績	金澤 和貴	整形外科
整形外科(61(7):688- 690, 2010)	三軸加速度計を用いた臼蓋形成不全における動 的不安定性の評価	前山 彰	整形外科
整形外科(61(10):1069- 1071, 2010)	母趾中足趾関節障害に対する鏡視下手術の検討	金澤 和貴	整形外科
日本足の外科学会雑誌 (30(2):50-53,2010)	足根管症候群の治療成績	金澤 和貴	整形外科
Hip Joint(36:453-458, 2010)	臼蓋形成不全症に対する両側Curved periacetabular osteotomy の治療成績	中村 好成	整形外科
Hip Joint(36:562-564, 2010)	臼蓋形成不全におけるCross-over sign の臥位と立 位の違いの検討	井田 敬大	整形外科
Hip Joint(36:610-612, 2010)	Curved Periacetabular Osteotomy における骨切り 線の形状と術後成績の関係	木下 浩一	整形外科
Hip Joint(36:617-619, 2010)	肥満患者と非肥満患者におけるCurved periacetabular osteotomy 術後成績の比較	黒田 大輔	整形外科
Hip Joint(36:662-665, 2010)	Short Stem THA 後の外転筋力評価:ステム外反角 が術後股関節外転筋力に及ぼす影響について	鎌田 聡	整形外科
Hip Joint(36:669-671, 2010)	Direct lateral approach における人工股関節全置 換術後の股関節外転筋力の検討	唐島 大節	整形外科
Hip Joint(36:695-697, 2010)	CT による臼蓋形態評価—関節前方の適合性につ いて—	田中 祥継	整形外科
肩関節(34(3):911-914, 2010)	全人工肩関節置換術における上腕骨骨頭設置位 置のX線学的検討	藤沢 基之	整形外科
日本人工関節学会誌 (40:426-427, 2010)	Short Stem THAのアプローチ別術後成績 posterolateralアプローチ vs translateralアプローチ	鎌田 聡	整形外科
日本人工関節学会誌 (40:716-717, 2010)	全人工股関節置換術後の腸腰筋腱炎を疑う2例	木下 浩一	整形外科
日本人工関節学会誌 (40:728-729, 2010)	高位脱臼性股関節症における股関節周囲血管の 解剖学的評価	唐島 大節	整形外科

J. Dermatol.(37:550-553, 2010)	Ulcerating Stasis Dermatitis of the forearm due to arteriovenous Fistula: A case report and review of literature.	出口 絵美	皮膚科
日本皮膚科学会雑誌.(120(11):2213-2217, 2010)	内臓悪性腫瘍の皮膚転移132例の臨床病理学的検討	古賀 文二	皮膚科
J. Dermatol.Nov.11, 2010 (ISSN 1346-8138. 2010/11/11)	A case of infantile herpes zoster in an infant born to a mother infected with varicella at 7 weeks of pregnancy.	出口 絵美	皮膚科
日本臨床(68(増刊号4): 604-608, 2010.4.20)	腎・泌尿器癌, 基礎・臨床研究のアップデート. 陰茎癌の治療総論.	田中 正利	泌尿器科
泌尿器外科(23(6): 839-841, 2010.6)	泌尿器科における各種ガイドラインの読み方. 泌尿器腹腔鏡手術ガイドライン.	田中 正利	泌尿器科
泌尿器外科(23(10): 1469-1479, 2010.10)	その道のスペシャリストたちに聞く.	田中 正利	泌尿器科
西日本泌尿器科(79(9): 513-522, 2010.9)	逆流性腎症	松岡 弘文	泌尿器科
日本泌尿器科学会雑誌 (101(5): 694-697, 2010.5)	日本住血吸虫症による後腹膜繊維症の1例	田中 正利	泌尿器科
J Obstet Gynaecol Res (36:733-738, 2010)	Longitudinal changes in canal length at 16-35weeks in normal twin pregnancies and twin pregnancies with preterm labor and delivery.	吉里 俊幸	産婦人科・総合周産期母子医療センター
J Med Ultrasonics (37:195-200, 2010)	Change in cervical length in cases resulting in threatened preterm labor.	吉里 俊幸	産婦人科・総合周産期母子医療センター
Int J Clin Oncol (15:206-209, 2010)	Case Report :Primary leiomyosarcoma of the fallopian tube.	植田 多恵子	産婦人科
産婦人科の実際 (59:699-703, 2010)	症例 妊娠経過中に急性心筋梗塞をきたした1例	南 星旭	産婦人科・総合周産期母子医療センター
Anticancer Res (30:3119-3123, 2010)	Apoptosis as a possible candidate mechanism for removal of tamoxifen-related endometrial cells with KRAS mutations.	辻岡 寛	産婦人科
Int J Cancer (127:2707-2717, 2010)	HB-EGF orchestrates the complex signals involved in triple-negative and trastuzumab-resistant breast cancer.	四元 房典	産婦人科
Cancer Sci (101:2351-2360, 2010)	Amphiregulin regulates the activation of ERK and Akt through epidermal growth factor receptor and HER3 signals involved in the progression of pancreatic cancer.	四元 房典	産婦人科
Anticancer Res (30:3143-3150, 2010)	HB-EGF inhibition in combination with various anticancer agents enhances its antitumor effects in gastric cancer.	讃井 絢子	産婦人科
日本分子腫瘍マーカー研究会誌(25(1):21-22, 2010)	卵巣癌におけるHB-EGF特異的抑制剤CRM197とPaclitaxelによる相乗的抗腫瘍効果	讃井 絢子	産婦人科
Cancer Sci (101:984-90, 2010)	Novel chemoembolization using calcium-phosphate ceramic microsphere incorporating TNP-470, an anti-angiogenic agent.	江本 精	産婦人科
産科と婦人科 (77:373-377,2010)	レーザーによる円錐切除術1 (CO ₂ レーザー)	植田 多恵子	産婦人科

ペリネイタルケア (29:748-753, 2010)	胎児の外表・形態に異常はないか?	吉里 俊幸	産婦人科・総合周産期母子医療センター
周産期医学 (40:1333-1337, 2010)	子宮収縮機序—薬物作用を含む—	小濱 大嗣	産婦人科・総合周産期母子医療センター
周産期医学 (40:1601-1604, 2010)	子宮収縮のコントロール	小濱 大嗣	産婦人科・総合周産期母子医療センター
Anticancer Res (30:3107-3112, 2010)	Emerging strategies for ErbB ligand-based targeted therapy for cancer.	辻岡 寛	産婦人科
Clin Ophthalmol(4:1325-1329, 2010)	Antiviral effect of N-chlorotaurine against adenovirus in vitro in serotypes causing keratoconjunctivitis.	内尾 英一	眼科
Jpn J Ophthalmol(54:252-254, 2010)	Anterior ischemic optic neuropathy following intravitreal bevacizumab.	ファン・ジェーン	眼科
臨床眼科(64: 543-546, 2010)	成人と小児における増殖硝子体網膜症の手術成績	小山田 剛	眼科
小児耳鼻咽喉科31巻3号 Page312-317(2010.12)	診断が遅れた先天性難聴の一症例	樋口 仁美	耳鼻咽喉科
耳鼻と臨床(56:139-144)	ダウン症候群、乳幼児の聴力経過の検討	山下 道子	耳鼻咽喉科
耳鼻と臨床(56:206-211)	当科における挿管性披裂軟骨脱臼症例の検討	山野 貴史	耳鼻咽喉科
臨床消化器内科(25(7):845-850,2010)	早期大腸癌のX線診断	山邊 裕一郎	放射線科
臨床消化器内科(25(7):949-962,2010)	【消化器疾患の画像診断[放射線・MRI・超音波] スタンダードから新しい診断技術】肝の画像診断 造影剤を用いた肝MRI検査の有用性	光藤 利通	放射線科
肝胆膵画像(12(5): 593-602,2010)	【肝胆膵の転移性腫瘍】転移性肝腫瘍 消化管悪性腫瘍	吉満 研吾	放射線科
臨床画像(26(11)増刊:6-22,2010)	【泌尿器・生殖器腫瘍 まるわかり事典】腎	吉満 研吾	放射線科
臨床画像(27(3): 318-327,2010)	【All About Gd-EOB-DTPA MRI】Gd-EOB-DTPAの非特異的造影剤との比較と使い分けについて	吉満 研吾	放射線科
臨床放射線(55(5): 692-697,2010)	一時的肝静脈バルーン閉塞下肝動脈化学塞栓術を施行した著明なAV shuntを有する肝静脈内腫瘍栓合併肝細胞癌の1例	浦川 博史	放射線科
Jpn J Radiol(28(6): 483-488,2010)	Pseudolesion of the liver observed on gadoxetate disodium-enhanced magnetic resonance imaging obtained shortly after transarterial chemoembolization for hepatocellular carcinoma.	品川 喜紳	放射線科
Journal of Cancer Research and Therapeutics(6(4): 581-584, 2010)	Advanced olfactory neuroblastoma treated with combined conventional and hypofractionated stereotactic radiotherapy.	野元 諭	放射線科
J Int Med Res (38(6):1997-2003,2010)	Neuromuscular blockade by vecuronium during induction with 5% sevoflurane or propofol.	仁田原 慶一	麻酔科

HEAD & FACE MEDICINE(6:4, 2010)	Three lateral osteotomy designs for bilateral sagittal split osteotomy: biomechanical evaluation with three-dimensional finite element analysis.	高橋 宏昌	歯科口腔外科
福岡歯科大学学会雑誌 (36(2):57-66, 2010)	摂食・嚥下障害の診断と治療—病態に応じた診断と治療法について	原 巖	歯科口腔外科
Dysphagia Published online(August 29, 2010)	Impaired Food Transportation in Parkinson's Disease Related to Lingual Bradykinesia.	梅本 丈二	歯科口腔外科
J Neurol Sci. (288: 117- 122, 2010)	Dietary fat intake and risk of Parkinson's disease: a case-control study in Japan.	喜久田 利弘	歯科口腔外科
J Neurol Sci. (293: 82- 86, 2010)	Case-control study of risk of Parkinson's disease in relation to hypertension, hypercholesterolemia, and diabetes in Japan.	喜久田 利弘	歯科口腔外科
Parkinsonism Relat Disord(6: 447-452, 2010)	GST polymorphisms, interaction with smoking and pesticide use, and risk for Parkinson's disease in a Japanese population.	喜久田 利弘	歯科口腔外科
Br J Nutr(104: 757-764, 2010)	Dietary intake of folate, vitamin B-6, vitamin B-12, and riboflavin and risk of Parkinson's disease: a case-control study in Japan.	喜久田 利弘	歯科口腔外科
J Neurol Sci(297: 15- 18, 2010)	LRRK2 Gly2385Arg polymorphism, cigarette smoking, and risk of sporadic Parkinson's disease: a case-control study in Japan.	喜久田 利弘	歯科口腔外科
Acta Neurol Scand(122: 377-382, 2010)	Active and passive smoking and risk of Parkinson's disease.	喜久田 利弘	歯科口腔外科
BMC Neurology. (10: 111, 2010)	Alcohol drinking and risk of Parkinson's disease: a case-control study in Japan.	喜久田 利弘	歯科口腔外科
小児外科 (42(4): 420-425,2010)	小児外科疾患を有する患児のQOLヒルシュスブルグ病類縁疾患患児の在宅におけるQOL向上への栄養管理の工夫	増本 幸二	総合周産期 母子医療センター
日小外会誌 (46(2):269-273,2010)	Free airを呈した新生児穿孔性虫垂炎の1例	増本 幸二	総合周産期 母子医療センター
小児外科 (42(5): 478-481,2010)	へそを使う手術・つくる手術 臍部弧状切開法と右上腹部横切開法による十二指腸閉鎖症手術の比較	増本 幸二	総合周産期 母子医療センター
臨床と研究 (87(8):1164-1167,2010)	乳児肛門周囲膿瘍に対する十全大補湯の長期使用経験	増本 幸二	総合周産期 母子医療センター
Pediatr Surg Int (26(10):963-966,2010)	Umbilical crease incision for duodenal atresia achieves excellent cosmetic results.	高橋 庸子	総合周産期 母子医療センター
日小外会誌 (46(4): 791-796,2010)	超低出生体重児における消化管穿孔の実態調査	増本 幸二	総合周産期 母子医療センター
日小外会誌 (46(5):867-872,2010)	Fryns症候群に重症先天性横隔膜ヘルニアを合併した超低出生体重児の1例	増本 幸二	総合周産期 母子医療センター
小児外科 (42(9):946-951,2010)	小児NST病態栄養シリーズ:特殊病態下の管理 超短腸症候群に合併したミルクアレルギー	増本 幸二	総合周産期 母子医療センター
臨床と研究 (87(9): 1288-1289,2010)	肝移植のタイミングに難渋した巨大肝芽腫の1例	増本 幸二	総合周産期 母子医療センター

周産期新生児誌 (46(4):1123-1130,2010)	胎児左横隔膜ヘルニアにおける胃右胸腔内脱出の意義	増本 幸二	総合周産期 母子医療センター
周産期新生児誌 (46(4):1131-1134,2010)	胎児横隔膜ヘルニアにおける出生時心エコー所見の生後予後因子としての有用性	増本 幸二	総合周産期 母子医療センター
周産期新生児誌 (46(4):1147-1149,2010)	高度な肺低形成を認めECMO下に根治術を行った両側先天性横隔膜ヘルニアの1例	増本 幸二	総合周産期 母子医療センター
J Pediatr Surg (45(12):2312-6,2010)	Concordance for neuroblastoma in monozybotic twins:case report and review of the loterature.	増本 幸二	総合周産期 母子医療センター
周産期新生児誌 (46(4):1070-1072,2010)	胎児診断により出生直後から治療し得た先天性横隔膜ヘルニアの治療成績(他施設共同研究)分娩方針と予後	増本 幸二	総合周産期 母子医療センター
Pathol Int. (60(1):14-21, 2010.)	Epithelial-mesenchymal transition in human lungs with usual interstitial pneumonia: quantitative immunohistochemistry.	鍋島 一樹	病理部
Int J Cancer. (126: 2563-74, 2010.)	Overexpression of IQGAP1 in advanced colorectal cancer correlates with poor prognosis-critical role in tumor invasion.	鍋島 一樹	病理部
Histopathology(58: 395-407, 2010)	Pathological and immunohistological findings and genetic aberrations of intestinal enteropathy-associated T cell lymphoma in Japan.	竹下 盛重	病理部
Journal of Biomechanical Science & Engineering, (5(4): 291-302, 2010)	Correlation between stress/strain and the retention of lipoprotein and rupture in atheromatous plaque of the human carotid artery: a finite element study.	坂田 則行	病理部
胃と腸(45(9): 1439-1450 2010)	食道表在癌の深達度診断	二村 聡	病理部
胃と腸(45(7): 1073-1085, 2010)	低異型度分化型胃癌-その病理学的特徴-	二村 聡	病理部
日本皮膚科学会雑誌 (120(8): 1653-1658,2010)	皮膚および皮下脂肪組織に生じた顆粒細胞腫(Granular cell tumor)の臨床および病理組織学	古賀 佳織	病理部
J Cardiovascul Electrophysiol(21(3):311-319,2010)	Vanoxerine, a new drug for terminating atrial fibrillation and flutter.	松本直通	臨床検査部 (循環器内科兼務)

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 内 藤 正 俊
管理担当者氏名	庶務課長 菊 池 孝 志、 医療管理課長 藤 恵 治 医事課長 青 柳 征 一、 医療情報部事務室室長 金 森 勝 俊 薬剤部長 二 神 幸 太 郎、 放射線部技師長 稲 富 孝 治

	保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	庶務課、医療情報部、放射線部、薬剤部、手術部、看護部、臨床検査部、病理部	<ul style="list-style-type: none"> 平成21年8月5日から、入院診療録、外来診療録とも電子カルテシステムの運用を開始。電子カルテシステムは全て患者登録番号で管理。紙での保管を要する診療記録については、電子カルテシステム稼働以前と同じ保管形式を採用。電子カルテシステム稼働以前の入院診療録は、入院期間毎に作成され、ターミナル・デジット方式にて分類保管。外来診療録は、各科共通として患者ごとに作成され、登録番号順に保管。入院診療録は最終来院日から20年間、外来診療録は15年間保管。入院診療録の病歴データは病歴管理システムの部門サーバに保存。 薬剤管理指導記録はPICS（薬剤管理指導支援システム）から電子カルテに送信、各患者カルテに保管。同記録はPICS上でも確認可能。 処方せん：薬剤部内で保管し2年を経過後月単位で廃棄。 	
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	庶務課	先進医療実績報告（帳票管理） 平成22年年間紹介率集計表（帳票管理） 外来患者 日報・月報・年報、入院患者 日報・月報・年報（帳票管理）
	高度の医療の提供の実績	医療管理課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	庶務課	
	高度の医療の研修の実績	庶務課	
	閲覧実績	医療情報部	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医療管理課 医療情報部	
入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医療管理課 医事課 薬剤部		
第規一則号第一に掲げる十の制	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	医療安全管理部にて一括管理 以下項目、上記と同じ
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部	

の一項 確保各 の号 状及 況び 第九 条の 二十三 第一 項	医療機関内における 事故報告等の医療に係 る安全の確保を目的と した改善のための方策 の状況	医療安全管理 部	感染制御部にて管理 医療安全管理部にて一括管理 以下項目、上記と同じ
	専任の医療に係る安 全管理を行う者の配置 状況	医療安全管理 部	
	専任の院内感染対策 を行う者の配置状況	感染制御部	
	医療に係る安全管理 を行う部門の設置状況	医療安全管理 部	
	当該病院内に患者から の安全管理に係る相談 に適切に応じる体制の 確保状況	医療安全管理 部	

		保管場所	分類方法	
病院の管理 及び運営に 関する諸記 録	規則第 一条の 十一 第一 項各 号及 び第 九条 の二 十三 第一 項第 一号 に掲 げる	院内感染のための指 針の策定状況	庶務課及び感染制御部にて管理 以下項目、上記と同じ	
		院内感染対策のため の委員会の開催状況		庶務課、感染 制御部
		従業者に対する院内 感染対策のための研修 の実施状況		庶務課、感染 制御部、医療 安全管理部
		感染症の発生状況の 報告その他の院内感染 対策の推進を目的とし た改善のための方策の 実施状況		庶務課、感染 制御部
		医薬品の使用に係る 安全な管理のための責 任者の配置状況	薬剤部	薬剤部にて一括管理 以下項目、上記と同じ
		従業者に対する医薬 品の安全使用のための 研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用の ための業務に関する手 順書の作成及び当該手 順書に基づく業務の実 施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用の ために必要となる情報 の収集その他の医薬品 の安全使用を目的とし た改善のための方策の 実施状況	薬剤部	
	医療機器の安全使用 のための責任者の配置 状況	臨床工学セン ター	臨床工学センターにて一括管理 以下項目、上記と同じ	

体制の確保の状況	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学センター
	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学センター
	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学センター

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	医療情報部長 志村 英生
閲覧担当者氏名	医療情報部事務室長 金森 勝俊
閲覧の求めに応じる場所	研修センターA棟カルテ庫、事務室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	4件
閲覧者別	医師	延 4件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	69.0%	算定期間	平成22年4月1日～平成23年3月31日
算出根拠	A: 紹介患者の数	13,138人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	9,705人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	1,385人	
	D: 初診の患者の数	25,390人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第 13-2)

規則第 1 条の 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 第 3 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
・ 指針の主な内容：1. 安全管理に関する基本的考え方 2. 安全管理のための委員会および院内の組織に関する基本事項 3. 安全管理のための職員研修に関する基本方針 4. 安全確保を目的とした改善策を講ずるための基本方針 5. 医療事故等発生時の対応に関する基本方針 6. 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 7. 患者からの相談への対応に関する基本方針 8. その他医療安全の推進のために必要な基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 下記参照 回
・ 活動の主な内容：1. 医療安全管理委員会 (月に 1 回) 2. 医療安全管理部小委員会 (月に 2 回) 3. セーフティマネジャー会 (月に 1 回) 4. 医療安全カンファレンス (週に 1 回)	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 9 回
・ 研修の主な内容：別紙参照 (平成 22 年度 安全管理のための職員研修一覧)	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容：① 医療安全管理者が抽出したインシデントの事例を医療安全管理部小委員会で検討を行っている。また検討内容を議事録として各委員へ配布し、安全管理・危機管理意識が向上するように努めている。② 検討した事例で改善を要するものはセーフティマネジャー会を通じ、全職員に周知徹底している。③ セーフティマネジャー会での内容は、端末で資料閲覧として職員向けに公開している。④ 医療安全管理部長又は医療安全管理者は、事故、インシデント、合併症発生時など、必要に応じ当事者、当該部署と個別に対応し指導する。特に重要事例に関しては、検討会を重ねて、迅速な対応を心掛けている。⑤ 改善結果を「安全管理レポート」としてフィードバックを行っている。⑥ 病院全体の問題として取り上げる必要がある事例は、医療安全管理委員会に提言し、安全管理の改善に役立てる。⑦ 毎週 1 回、医療安全管理カンファレンスを行っている。内容は医療事故、合併症、インシデント事例の検討、医療安全教育の企画、医療相談窓口で対応した事例の検討等としている。	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (1 名) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (1 名) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有・無
・ 所属職員： 専任 (6) 名 兼任 (3) 名 ・ 活動の主な内容：《医療の安全管理》 以下 7 項目 ① 安全管理に係る会の運営 ② 医療事故発生時の対応 ③ 医療安全に係る連絡調整 ④ 医療事故防止に向けた内部監査 ⑤ インシデント報告・アクシデント報告の分析 ⑥ 安全管理に関する教育・研修 ⑦ 安全管理レポート・医療安全情報の発行 《患者からの相談》 以下 4 項目 ① 治療上の問題に関する事柄 ② 入院及び退院に関する事柄 ③ 生活面及び経済的な問題に関する事柄 ④ 相談内容に応じた関係部署及び関係機関との連絡調整に関する事柄	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有・無

平成22年度 安全管理のための職員研修一覧

開催日	内 容	講 師	対 象	参加人員	場 所
2010/4/27	1)情報セキュリティ・インフォームド・コンセント	1)志村英生(医療情報部長)	全職種	1,572	RI講義棟
	2)福岡大学病院の感染対策 up to date	2)高田徹(感染制御部長)			
2010/6/4	1)平成21年度 インシデント報告	1)前田智恵美(医療安全管理者)	全職種	1,039	RI講義棟
	2)医療訴訟の現状	2)三ツ角直正 (三ツ角法律事務所 弁護士)			
2010/7/29	不穏・せん妄における向精神薬の使い方	田中謙太郎(精神神経科医局長)	全職種	1,048	RI講義棟
2010/9/29	1)医薬品有害作用の管理	1)宇野勝(福山大学薬学部教授)	全職種	986	RI講義棟
	2)MRI検査および検査室入室時の諸注意	2)森本祥一 (診療放射線技師)			
2010/10/29	久留米大学病院における職業感染予防対策	渡邊浩 (久留米大学病院 感染制御部部長)	全職種	1,308	RI講義棟
2010/11/29	深部静脈血栓／肺塞栓症の診断・予防・治療	石倉宏恭 (救命救急センター長)	全職種	829	RI講義棟
2011/1/13	医事紛争～最近の傾向と対策～	大木實 (大木整形リハビリ医院院長)	全職種	781	RI講義棟
2011/2/28	感染症との戦い	尾身茂 (自治医科大学地域医療学センター 公衆衛生学教授)	全職種	893	RI講義棟
2010/6/25	1)インスリン治療のA・B・C	1)柳瀬敏彦 (内分泌・糖尿病内科部長)	医師 看護師	495	RI講義棟
	2)輸血ミスを防ぐために	2)熊川みどり(輸血部医局長)			
—			合計	8,951	

(様式第 13-2)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 院内感染対策に関する基本的考え方2. 院内感染対策のための委員会および院内の組織に関する基本事項3. 感染対策に関する教育・研修に関する基本方針4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針5. 院内感染発生時の対応6. 感染対策指針の閲覧に関する基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">・ 感染対策委員会 (1回/月)・ 感染制御部会議 (1回/月)・ セーフティマネジャー会議 (1回/月)・ 看護部部内感染対策委員会 (1回/月)	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 3 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>平成22年4月26日 「福岡大学病院の感染対策Up to Date」 講師：高田徹 (感染制御部部長 院内)</p> <p>平成22年10月29日 「久留米大学病院における職業感染予防策」 講師：渡邊浩 (久留米大学医学部感染医学講座教授 久留米大学病院感染制御部部長 院外)</p> <p>平成23年2月28日 「感染症との戦い」 (自治医科大学 尾身茂 院外)</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 1回/週ICT (ICD, ICN, 細菌検査技師, 薬剤師) が病棟ラウンドを行い、サーベイランス活動を実施する。病棟ラウンドに際して、資料 (細菌検査室：全部署の直近2週間分の分離菌一覧表、薬剤部：抗MRSA薬、カルバペネム系抗菌薬使用患者一覧表、ICN：部署別耐性菌検出患者一覧表ラウンドシート) を準備する2. 感染対策システム (電子カルテ上端末) で血液培養陽性患者、抗酸菌陽性者、新規多剤耐性菌検出患者の報告を確認する3. 院内感染を疑う場合には、感染制御部で連携し、関連部署と調整し対応する4. 行政への報告対応が必要な場合は、感染対策危機管理委員会を召集し事態の収拾を図る5. アウトブレイク等の問題が発生した部署については、当該部署のスタッフを対象に研修会を開催する6. アウトブレイク介入事例については、病院職員に対して、電子カルテ端末上で通知、診療部長会セーフティマネジャー会を通して感染対策について周知徹底を図る

(様式第 13-2)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 1 5 回
<ul style="list-style-type: none">研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none">不穩・せん妄における、向精神薬の使い方医薬品有害事象の管理医薬品等安全性情報提供加算についてサレド、レブラミドについて安全性情報提供・副作用調査について医薬品保管管理について注射麻薬の取扱いについてイラグルチド安全性情報（フルクター）医薬品安全使用のための業務手順書について覚せい剤原料（エフピーOD錠）の取扱いについて <p style="text-align: right;">など</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">手順書の作成 (有・無)業務の主な内容：<ul style="list-style-type: none">○医薬品の採用； 薬事委員会において採用可否審議（薬剤部は事務局）、医薬品安全管理責任者は委員として参加○医薬品の管理； 期限管理等を確認表を用いて各部署にて確認。月単位で医薬品安全管理責任者が確認。新規の重点管理薬に対しての手順策定など。○患者に対する医薬品の投薬時から調剤までに関する事項； ハイリスク薬品の調剤手順に従って調剤等。病棟巡回などで確認○患者に対する与薬や服薬指導に関する事項； バーコードによる3点認証導入。薬剤管理指導の推進（持参薬管理から退院時指導まで）○医薬品情報の収集・管理・提供； 医薬品情報室による情報収集と必要に応じた情報の提供推進。特に安全性にかかわる情報の発信○他施設との連携； 持参薬管理による持ち込み医薬品の確認。退院時指導による入院中使用医薬品、副作用等の情報をおくすり手帳を介して提供する体制作り	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無) 薬剤部医薬品情報室が中心となって収集作業を行うその他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none">○散剤分包紙に薬品名を印字開始○覚せい剤原料調剤時に「施用中止届」を添付し、中止時の確実な伝達	

(様式第 13-2)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	(有)・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年75回
・ 研修の主な内容： 新しい医療機器導入時研修 10回 安全使用のための研修・学会・医療機器セミナー 65回 ：主な内容は シリンジ・輸液ポンプの安全使用、酸素療法機器、人工呼吸器、血液浄化装置、生体情報モニター、除細動器、保育器、電気メス、低圧持続吸引機、補助循環装置、麻酔器、大動脈内バルーンポンプ装置	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 計画の策定 (有)・無) ・ 保守点検の主な内容： 人工心肺装置及び補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動器、閉鎖式保育器、シリンジ、輸液ポンプ、麻酔器、低圧持続吸引器、放射線関連装置 病棟関連機器：12誘導心電計、テレメータ、ベッドサイドモニター パルスオキシメータ	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有)・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 情報収集：医薬品医療機器総合機構、日本臨床工学技士会、日本医療機能評価機構、による安全情報の収集、メーカーによる安全情報の収集 情報の周知：院内セーフティマネージャー会による周知 院内オーダーリング画面上に安全情報の掲載 医療機器の安全使用：臨床工学技士の研修、医療従事者への説明会	